

第31回秋田県JA大会

11月26日(金)、第31回秋田県JA大会が「農業と地域社会の持続力向上」人づくり、産地づくり、地域づくり、強いJAづくりを通じて」をメインテーマに、秋田キャッスルホテルで開かれました。同時にウェブ配信も行われ、JA秋田なまはげ会館などの県内各地のリモート会場と併せて約500名が参加し、令和4年度から3年間の基本方針となる大会議案を決議しました。

大会では、JAグループ秋田が一丸となつて秋田県農業の持続的な発展と地域社会の持続性の維持に挑むため、労働力の確保や支援、産地づくりや営農経済事業体制の見直し、インフラ機能の発揮やくらしの活動などによる地域社会の維持、経営基盤の強化に向けた組織再編などが挙げられました。

- 持続可能な農業の実現
- 安心して暮らせる豊かな地域社会の実現
- 目指す姿を実現する強いJAづくり

持続的な農業と地域社会を目指して大会議案を決議しました
(秋田キャッスルホテル)



NEWS & TOPICS

東北各地のJA・農政関係者が当JA管内を視察

11月、東北各地から当JA管内に多くのJAや農政関係者が視察に訪れました。11月18日(木)にはJA会津よつばの役職員が秋田市雄和を訪れ、当JAが管内の園芸メガ団地の整備状況や担い手への支援体制などを説明しました。JA会津よつばの長谷川正市組合長は「福島でも園芸団地が構想されている。園芸品目の生産が伸びている秋田などの事例を参考に、農業振興を図りたい」と話しました。

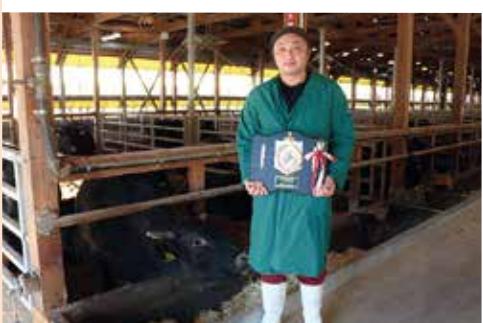
(農)平沢ファームの齊藤又右衛門代表理事から設立経緯などを聞いた参加者からは、園芸メガ団地を整備するときの注意点や労働力の確保などについて質問が上がりました。

(農)平沢ファームを視察した
JA会津よつばの役職員ら

(株)寿牧場に農水大臣賞

秋田市河辺の(株)寿牧場が手掛けた枝肉が、第98回秋田県畜産共進会および第13回秋田牛枝肉共励会で、最高賞の農林水産大臣賞(チャンピオン賞)に輝きました。

受賞した枝肉は、父が芳之国、母の父が諒太郎、母の母の父が菊福秀のA-15等級で、ロース芯面積が94cm²、霜降り(脂肪交雑)の程度を示すBMSが最高値の12、枝肉総重量が665kgと、高い品質を記録しました。



品質の高さが評価された
高橋専務取締役

